

【新聞活用学習】全校研究・社会科公開授業

問いをもって学び、自分の考えをみいだす授業 ～対話を通して、学ぶ楽しさを実感する生徒の姿を目指して～

指定校 1 年次 須坂市立相森中学校 土屋 栄佑・米山 聡

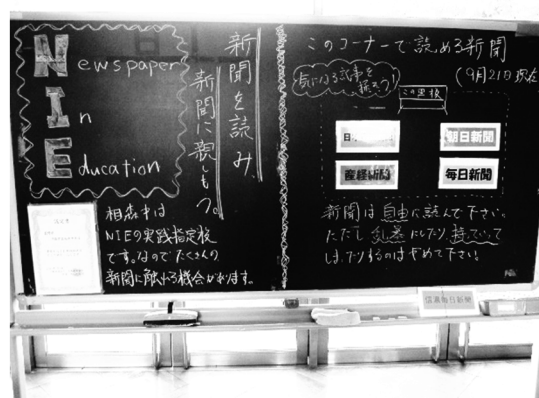
(1) 本年度のN I E活動の概要

本年度、N I E研究校に指定された本校は、1 年次研究として、以下の内容を実施してきた。

- ① 昇降口と学年棟に、生徒が新聞を閲覧できる「N I E コーナー」を設置した。
- ② 生徒が通行する廊下の掲示板に、新聞にかかわる掲示物や、新聞を読むことを啓発する掲示物を掲示した。
- ③ 新聞を活用した授業について、職員研修を実施した。
- ④ 新聞を活用した授業実践を、いくつかの教科で実施した。

(2) 本年度のN I E活動の取り組み状況

本校は、全校生徒 3 1 3 名、各学年 3 学級の中規模校である。日頃から新聞を読む習慣が少ない生徒たちに、まずは新聞を身近に感じてもらうことをねらい、昇降口に「N I E コーナー」を設置した。コーナーには移動式黒板を併設しておき、有志の教師が数日おきに、記事にちなんだ問いを生徒に投げ掛けたり、気になった記事を紹介したりした。新聞を手にする生徒は少なかったものの、教師の書いた内容には興味を持って足を止める姿が見られた。2 学期以降には、学年棟にも閲覧コーナーを設置し、新聞を手に取りやすい状況を作った。時期や方法などを工夫し、来年度以降も設置していくことを考えている。また授業実践としては、社会科を中心として、複数の学年で新聞を活用した授業を実施した。



昇降口に設置したN I Eコーナーの黒板

(3) N I E活動のねらい

本校は、全校研究テーマを「問いをもって学び、自分の考えを見いだす授業 ～対話を通して、学ぶ楽しさを実感する生徒の姿を目指して～」と据えて、日々の授業改善に重点を置いて研究を進めている。このテーマから分かるように、本校では、「自分の考えを見いだす生徒」、「学ぶ楽しさを実感する生徒」の姿を目指しており、その姿を実現するために、授業の中で「問いをもつこと」、「対話をする」とを大切にしている。

N I E活動には、日常生活や授業内容について生徒がもった「問い」の答えを新聞に求める場面や、新聞を読むことで新たな問いをもつ場面があるだろうと考える。また、新聞の内容について取り上げ、共有することで、事象（記事）との「対話」、友との「対話」、自己との「対話」が生まれる場面もあるだろうと考える。このように、本校が目指す生徒の姿を実現するために、新聞を活用することができる考え、授業において新聞を活用した実践を重ねている。

(4) 全校での取り組み

① N I Eコーナー

昇降口と学年棟に、N I Eコーナーを設け、生徒が自由に新聞を閲覧できるようにしたり、教師が気になった記事を紹介したりした。

② N I Eについての職員研修

本校の全校研究テーマの姿を具現するために、新聞を授業に活用することの意義を学び、どのような活用の仕方が考えられるか、実践のアイデアを出し合った。

③ 英語科での実践

- ・日本の伝統文化（もの・ひと・習慣 など）をA L Tに紹介する目的で、日本が世界に誇れるものにはどんなものがあるか、新聞を使って探した。
- ・英字新聞のフォーマットをA L Tに作成してもらい、A L Tに対して生徒がインタビューした内容を基に、新聞を作成した。



新聞から「日本文化」を探す生徒

④ 社会科での実践 ※（５）を参照

(5) 公開研究授業

①単元名 公民的分野 第4章「私たちの暮らしと経済」 2節「生産と労働」（全7時間）

②単元展開の概要

第1時	学習問題：資本主義を担う企業の役割を知ろう ・資本主義経済の仕組みを大きく捉える。
第2時	学習問題：企業にはどのような種類があるのだろうか ・知っている企業をあげていきながら役割を考えることで、企業が利潤を得ることの大切さを感じる。
第3時	学習問題：株式会社の仕組みを知ろう ・株式会社の仕組みを知ることで、利潤を得るための企業の取り組みを理解する。 NIE：上場している企業の株価を知る
第4時	学習問題：働く人に認められている権利にはどのようなものがあるだろうか ・労働基本権、労働三法などの存在と意義について理解し、労働者にも権利が認められていることを知る。
第5時	学習問題：労働形態の変化とその理由について考えよう ・国際競争が激しくなる世の中で多様化する労働形態について理解し、課題について考える。
第6時 (前時)	学習問題：日本の労働時間と、それが及ぼす影響にはどのようなものがあるのだろうか ・日本の労働時間と、それが及ぼす影響や問題点について理解する。 NIE：過労により、就労不可能になったり、自殺してしまったりする人の実情
第7時 (本時)	学習問題：一人一人が働くときに、大切にしたいことはどんなことだろうか (詳細は本時案にて)

③本時案（全7時間中の7時目）

・主眼

日本の労働には、長時間であることや失業率が高いことなどの課題点があることを知った生徒たちが、働く意味について考える場面で、仕事と家庭の両立を目指したり、自分や社会のために働き方を工夫したりしている実践事例を新聞記事から知り、共感できることを伝え合うことを通し、働きがいのある仕事とはどのようなことかについて多面的・多角的に考えることができる。

・展開

	学習活動	予想される生徒の反応	指導・ <u>評価</u>	時
導 入	日本の労働の問題点について振り返る	- 日本の労働時間は、以前よりは減っているが、それでも先進工業国の中ではまだ長いほうだ。 - 失業率が高いので、働く意思があってもそれができない人がある。 - 法律や制度で認められていても、結局改善されないこともあるのが問題点。	- 労働の問題点について、数名の生徒に発言を促し、全体で共有する。 - 出てきた問題点を踏まえ、どのような働き方がよいか問いかけ、学習問題を据える。	3
	学習問題：一人一人が働くときに、大切にしたいことはどんなことだろう。			
展 開	学習問題についての考えを述べる	- 自分は好きなことが仕事にできるようになるといいと思う。 - 自分の生活が快適にできるような給料がもらえる仕事。 - 安定した収入が得られる仕事 - 働きがいのある仕事内容が良い。	学習問題に対する考えを数名の生徒に発言するように促す。	2
	学習課題：仕事と家庭の両立を目指したり、自分や社会のために働き方を工夫したりしている実践事例を知り、自分にとって共感できることをまとめよう。			
	12の新聞記事から、「共感できる仕事の考え方」を選び、PC上で考えを記入する	- 自分は「①」の記事では、塚原さんは、社会や人のために自分のプリン店を経営していることに共感した。 - 自分は「②」の記事の、直感を大切にしたい仕事選びに共感した。 - 自分は「③」の記事の、ライフステージに応じた、働き方の選べる制度に共感した。 - 自分は「④」の記事の、フリーアドレス制度に共感した。自分で好きな場所で仕事を選ぶことは魅力的だ。 - 自分は「⑤」の記事の、託児所の「お手	- フォーム上のPC記事のあるページを開かせ、見方や、入力の手順を説明する。 - ランダムでみられる各社の新聞記事の切り抜きを準備し、たくさんの選択肢があるようにしていく。 - 一人一人の選択とその理由を認め、感じ方の多様性を重視する。	25

	・ PC 上で選んだ記事を共有する	伝いができたと喜びを感じた」というところが、やりがいにつながるという点で共感した。 ・ 自分は「⑥」の記事の、ジョブ型の雇用形式に共感した。スキルに応じた報酬や、育休などから明けた人の働きやすさに魅力を感じる。 ・ 自分は「⑦」の記事の、共働きを続けるために必要なサービスとする家事代行に共感した。 ・ 自分は「⑧」の記事の、コロナ禍で生産者を助ける消費の考え方に、みんなで国難を乗り越えようとすることに共感した。 ・ 自分は「⑨」の記事の、地元の産業を PR しようと、消費者の目線で工夫する点に共感した。 ・ 自分は「⑩」の記事の、あらゆるコミュニティー世界の考え方に、仕事の柔軟性を感じ、共感した。 ・ 自分は「⑪」の記事で、会社見学をたくさんすることで、より自分に合った仕事選びができると思い、共感した。 ・ 自分は「⑫」の記事の被災地を助けながら、資格を取得できる制度に共感した。 ・ 自分とは違う記事を選んだ仲間が、違う視点で共感しているのだと知り、参考になった。 ・ 働くことについての考え方は、人それぞれなのかな、と思った。	・ フォーム上に自由記述した生徒のものから、ピックアップし全体に紹介する。	10
終末	・ 働くうえで大切にしたいことをまとめる	・ やりたいことを仕事にするのはとても大切なことだが、自分の生活や家族の幸せを考えて仕事のバランスを工夫することとても大切だと思う。 ・ 仕事の時間や内容がもっと自由に選べるようなものが良いと思う。 ・ 自分の好きなことが確保できるような仕事時間で、収入も得やすい仕事選びをしていきたい。	・ 何人かの意見を共有していく。 働きがいのある仕事とはどんなことかについて多角的・多面的に考えることができる (思考・判断・表現)	10

【資料 生徒に提示した新聞記事の概要】

- ① 地域社会や地元の人のために、プリン店を経営し、やりがいをもって働く塚原米子さん
- ② 教員の仕事を辞め、小諸にワイナリーをオープンする決断をした藤田正人さん
- ③ テレワークとのハイブリッドや、ライフステージに応じた働き方を進める企業
- ④ 働く人が場所を自由に選べる「アクティビティ・ベースド・ワーキング」を進める企業
- ⑤ 子育て世代の人が働けるように、理由を問わずに子どもを預かる託児所
- ⑥ 働く側が仕事内容に応じて働ける「ジョブ型雇用」への転換について
- ⑦ 仕事を制限しないために、家事・育児代行サービスを活用する
- ⑧ コロナ禍を乗り越えるためのサステナブル消費を進める企業
- ⑨ 地元のりんごをPRするためにゲームを導入している自治体の取組
- ⑩ インターネットやVRを使って世界中の人と交流するメタバースを使った仕事について
- ⑪ 働く場所を選ぶために会社見学をたくさん行って就職活動をした中山沙季さん
- ⑫ 災害ボランティアをしながら重機の講習をして地元に貢献する林映寿さん

(6) 生徒の反応

Y生は、教師から提示された12の新聞記事の中から、自分が共感できる記事として「記事3」(図2)を選び、共感した理由について、下記のようにフォーム上に回答した(図1)。

在宅ワークを行うということのメリットはたくさんあると思います。
一つ目のメリットは、在宅ワークをすることで、人との接触をなるべく減らすことができることです。今の社会では重要です。
二つ目のメリットは、職場の人との人間関係を気にしなくてもよいということです。
三つ目のメリットは、自分の生活リズムで仕事を行えるということです。
時間の指定がなく仕事ができるということは自分の休みたいときに休むことができるので、労災を防ぐことにもつながると思います。
これらのことより在宅ワークができる職業については在宅ワークをしたほうが良いと思います。

図1 Y生のGoogleフォームへの回答(自分が共感できた新聞記事について)

「記事3」では、新型コロナウイルスの感染拡大により需要が高まったテレワークと、従来のオフィスワークの両方をバランスよく取り入れようとしている企業が紹介されている。記事を読んだY生は、「在宅ワークにはメリットがたくさんある」とし、3つの根拠を挙げた。Y生のそれらの主張は、コロナ禍に私たちが直面する実質的な問題点や、より快適な環境で仕事をすることの重要性、そして、自分の働き方を自分でデザインすることにより、労災も防げるのではないかという視点など、多面的・多角的に考えられている様子が感じられる。

在宅と出社 最適比を探る

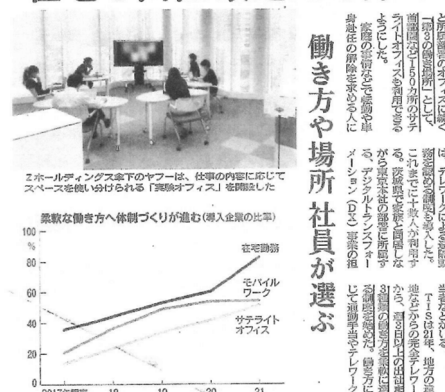


図2 生徒に提示した記事3の一部

日本経済新聞 2021年11月5日付

Y生がこれらの考えを記述したのは、生徒に提示した12の新聞記事の内容が、単元の学習内容を想起させたからであると考えられる。Y生は、多様な働き方が注目されるようになったことや、それによって生じる課題にも目を向けながら、どのようにしたらそれらの課題をクリアして快適に働くことができるのか、という視点で考えを述べている。これには、本単元の第4～6時において、労働者に認められた権利や働き方の多様化、実際に日本の労働時間が及ぼす影響と課題点などを学んだことが生かされている。このような生徒の姿から、新聞記事を通して実際の事例に触れながら学習する単元を構想したことが、働くことに対して多面的・多角的に考える手立てとなっていたと考えられる。

(7) 今後の課題

本時は、生徒が触れる新聞記事の量が多く、そのすべてを深く読んで理解した上で自分の考えを述べることは難しかったように思われた。また、生徒の考えが多岐にわたり、授業の着地点が曖昧になってしまった。生徒の中には、関心をもった記事について自分の感想を書くという活動になってしまい、「働く」ということや、「ワークライフバランス」について考えるところまでは到達できなかった姿も見られた。一方で、Y生のように、働くということについて、これまでの単元の学習を踏まえて、複数の視点から考え、記事に紹介されている働き方に共感した生徒も見られた。これは、単元の中で、労働そのものについて、また、労働者に認められた権利などについての知識を学んだり、労働災害にかかわる新聞記事を読んで現代社会の問題点について考えたりしてきたことが関係していると考えられる。以上のことから、次年度に向けて、単元全体の学びが本時に生きるような展開の工夫や、新聞を活用するポイントを、より具体的に想定して授業を構想していくことの必要性が見えてきた。

また、今回の実践で、一人一台端末を活用して、新聞記事を生徒に配布したり、意見共有を行ったりするなど、ICT活用の面で新聞活用の方角を探ることができた(図3)。次年度に生かしていきたい。



図3 一人一台端末を使って新聞記事を読む生徒